

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・区平均より大きく下回っていた「主体的に学習に取り組む態度」が改善した。
- ・文章を書くことに課題があったが、区平均との差が縮小し、意欲的に表現しようとする姿勢が養われた。

(2) 課題

- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」など基本的な知識・技能を身に付ける必要がある。
- ・古典分野への苦手意識を払拭できるように指導を工夫する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全ての観点において区の平均正答率を下回った。		
第2学年	全ての観点において区の平均正答率を下回った。	全ての観点において区の平均正答率を下回った。(第1学年時)	
第3学年	全ての観点において区の平均正答率を下回った。	全ての観点において区の平均正答率を下回った。(第2学年時)	全ての観点において区の平均正答率を下回った。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均に比べ、知識・技能の観点の正答率が下回っている。特に古典分野への苦手意識が強い。	区の平均に比べ、思考・判断・表現の観点の正答率が下回っている。文章を書くことや、複合的な文章の読み取りが苦手である。	区の平均に比べ、主体的に学習に取り組む態度の観点の正答率が大きく下回っている。学習意欲が低いことに課題がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均に比べ、知識・技能の観点の正答率が下回っている。漢字・語句や言葉について継続的に学習し、定着させる必要がある。	区の平均に比べ、思考・判断・表現の観点の正答率が下回っている。3観点の中では最も差が小さいが「読むこと」に依然課題が残る。	区の平均に比べ、主体的に学習に取り組む態度の観点の正答率が下回っているが、昨年と比べると大きく改善した。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法・語句に関する事項は目標値に近い値だが、漢字を書く問題に関しては目標値を下回る問題が多い。	文学的な文章の内容理解については目標値を上回るか近い値だが、説明的文章の内容理解や、文章を書く問題・聞き取る問題は目標値を下回っている。	全体として記述問題において、無回答・無記入が目立つが、作文の問題においては無回答・無記入の人数が少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 定期的な小テストを行い、漢字・語句に対する知識・理解を深めさせる。 - 古典分野の指導を丁寧に行い、興味・関心をもたせる。	文章を書くことに課題がある。さまざまな条件や長さの文章を、自分の考えを明確にして書く練習を重ねる。	区平均と比べて最もポイントが低く、学習へのモチベーションの低さが課題である。生徒が見通しをもって主体的に取り組めるような課題を工夫し実践する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字や言葉について関心をもたせ、小テストを活用して継続的に指導し定着させる。	- さまざまな種類の文章を正しく読めるよう丁寧に指導していく。 - ディスカッションや発表等を通して思考を深めたり広げたりできるよう指導する。 - 引き続き文章を書くことを積極的に行い、表現することの楽しさを味わわせる。	生徒自身が見通しをもって学習計画を立て、意欲をもって実践できるような授業内容を工夫する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法・語句に関する事項に関わるさまざまな例を紹介し、学習の定着を図る。 漢字の読み・書きについては小テスト、まとめテスト（50問テスト）の流れに沿って学習できるよう引き続き指導する。	説明的文章について、段落の役割や筆者の主張を正確に読み取り、自分の考えにつなげるように指導する。	記述問題について、問われていることを確認し、書くことへの抵抗をなくすよう粘り強く指導を続ける。